

JP-MIRAI会員フォーラム シンポジウム  
「外国人のセーフティネットの現状・課題について」

能登半島地震における  
外国人も含めた輪島市の見守り・相談支援について



輪島市災害たすけあいセンター・見守り・相談支援班  
生活支援相談員 山路健造



# 山路健造（輪島市社会福祉協議会生活支援相談員）



多文化共生マネージャー  
多文化社会コーディネーター

立命館アジア太平洋大学卒業

西日本新聞社で7年間、記者職として九州の国際交流、国際協力、多文化共生の現場などを取材。

新聞社を退職し、JICA青年海外協力隊でフィリピンへ派遣。自らも海外で「外国人」を経験。

帰国後、認定NPO法人地球市民の会入職。

2018年1月にサワディー佐賀を立ち上げ、代表に。

ウクライナ避難民支援の官民連携組織「SAGA Ukeire Network」事務局も担当。

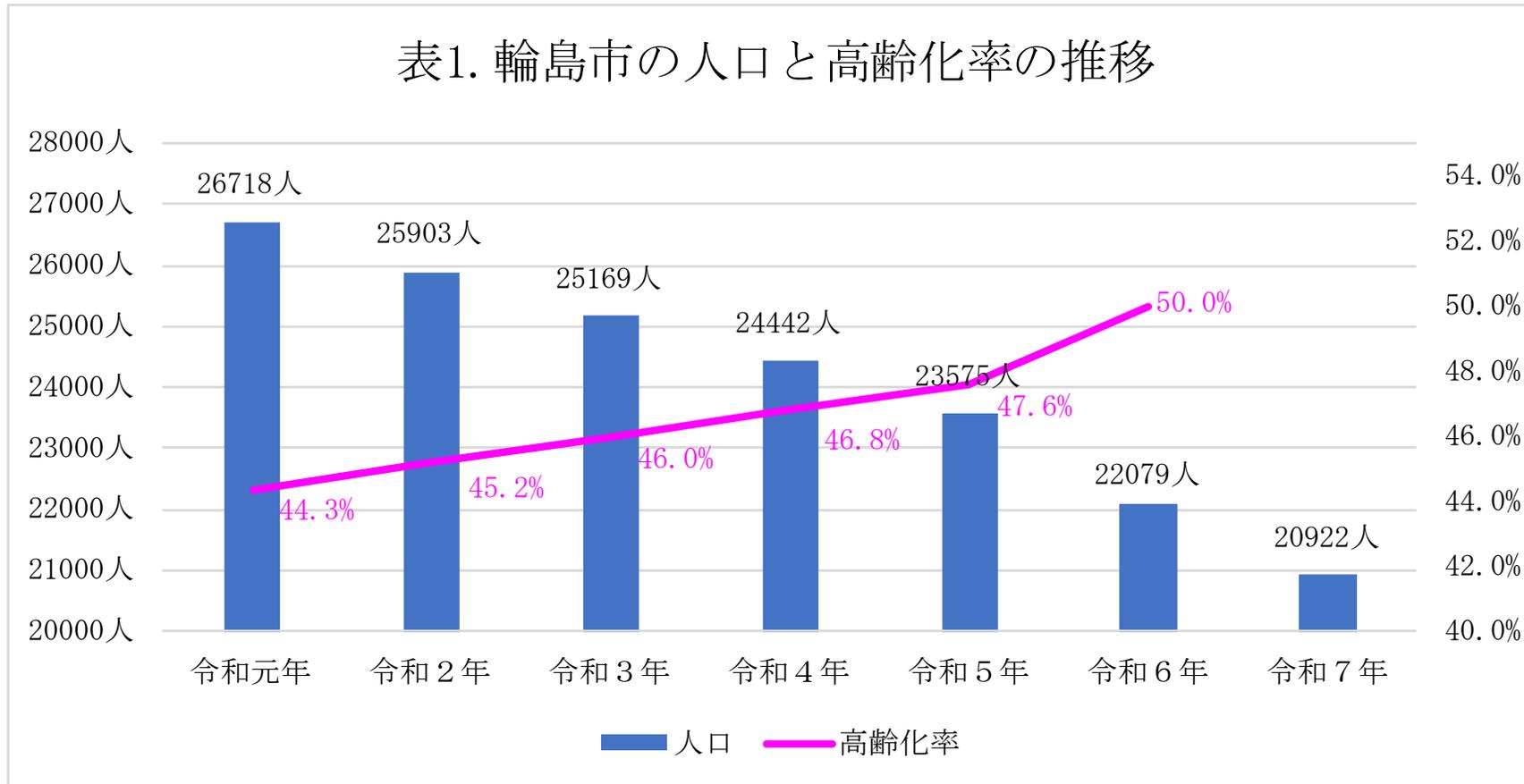
現在は、一般社団法人多文化人材活躍支援センター代表理事を務めるほか、2024年2月より能登半島地震支援に携わり、9月より輪島市社会福祉協議会生活支援相談員も兼務。

令和7年度から石川県国際化推進委員。



# 輪島市の人口規模・高齢化率

地震前から人口減が続き、地震によりさらに加速  
高齢化率は令和6年4月に50%越え



# 輪島市内における能登半島地震の被害状況

表2. 能登半島地震に輪島市内の人的・住家被害

人的被害( 単位: 人)		住家被害( 単位: 棟)	
輪島市内死者	204	輪島市内全壊	2,310
うち災害関連死	103	輪島市内半壊	3,954
輪島市内重軽傷者	516	輪島市内一部損壊	4,327

令和6年能登半島地震による人的・建物被害の状況について

【 第198報令和7年3月31日14時00分現在 】



# 輪島市内における奥能登豪雨の被害状況

表3. 奥能登豪雨による石川県内、輪島市内の人的・住家被害

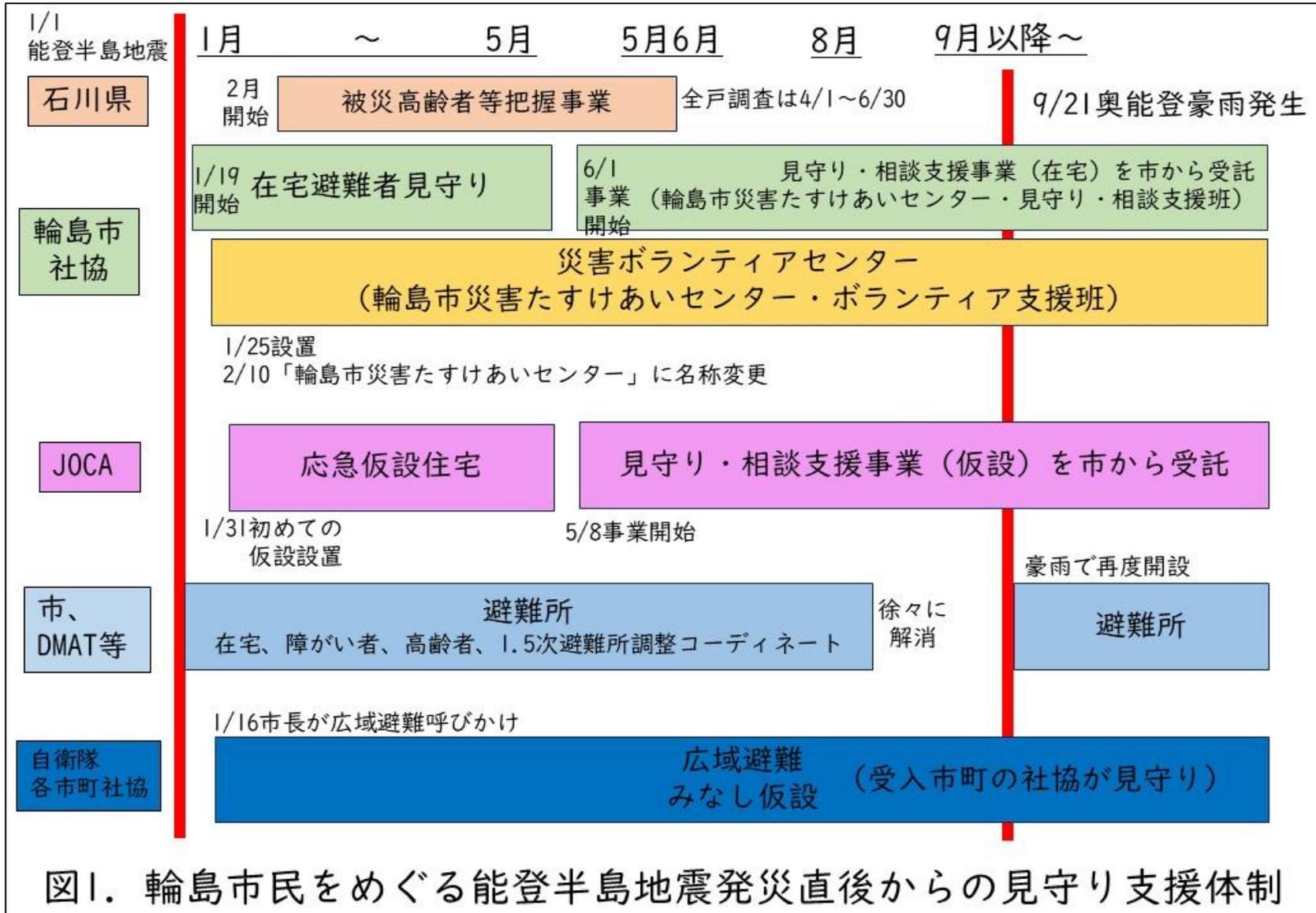
人的被害(単位:人)		住家被害(単位:棟)	
石川県内死者	16	輪島市内全壊	68
輪島市内死者	11	輪島市内半壊	579
石川県内重軽傷者	47	輪島市内一部損壊	66
輪島市内重軽傷者	35	輪島市内床上浸水	51
		輪島市内床下浸水	427

令和6年能登半島地震による被害等の状況について

【第49報令和7年3月25日14時00分現在】



# 輪島市災害たすけあいセンター・見守り・相談支援班の概要



# 輪島市災害たすけあいセンター・見守り・相談支援班の概要

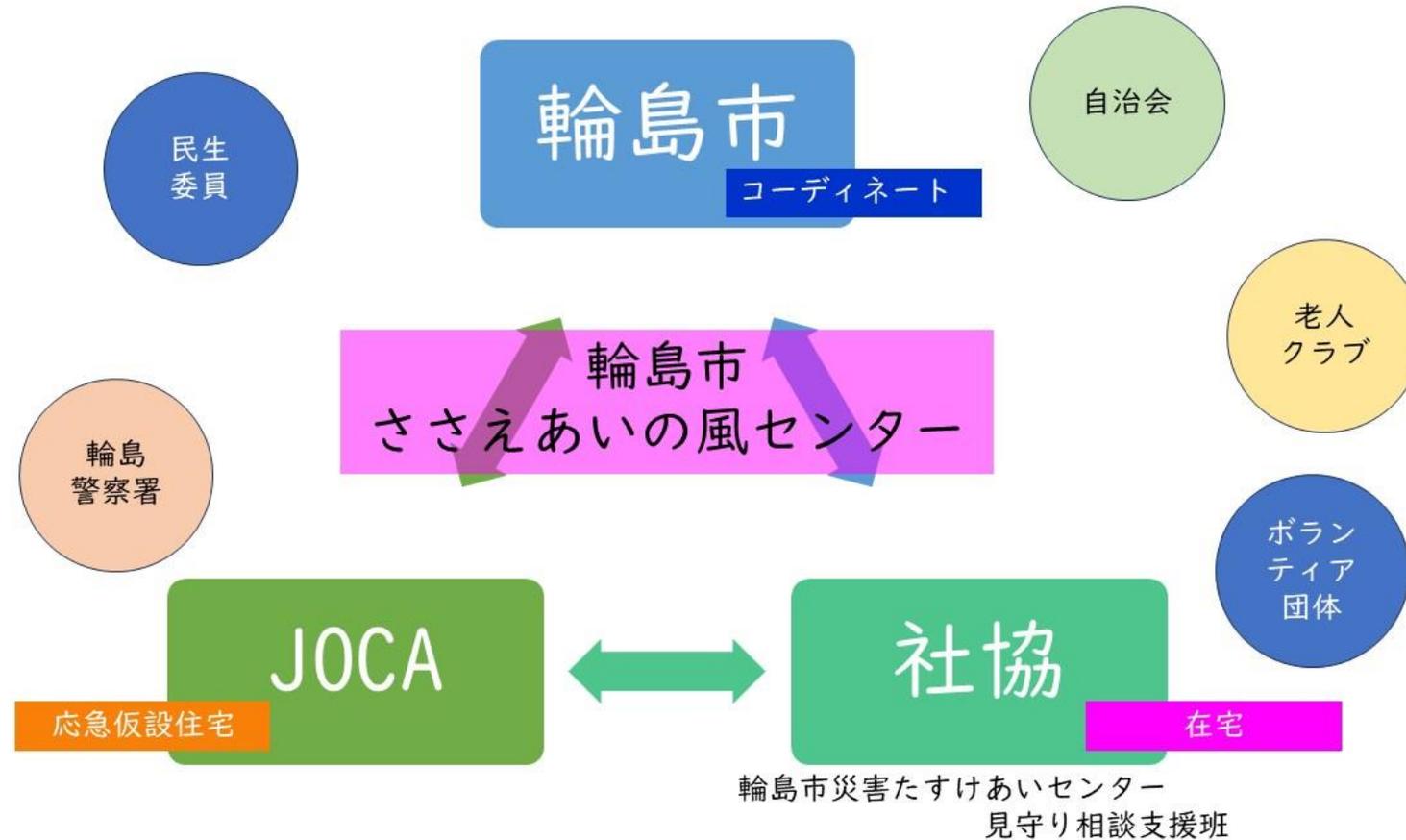
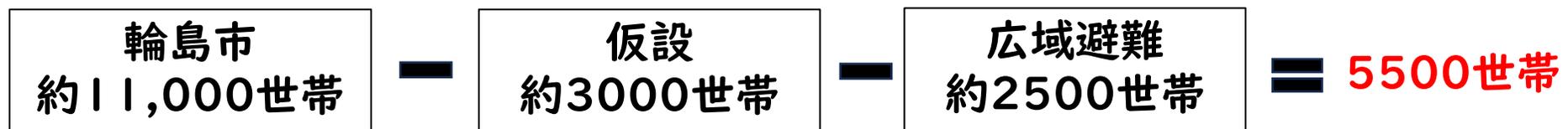


図2. 輪島市の見守り・相談支援事業の体制について



# 被災高齢者等把握事業

## 輪島市全戸訪問調査を引き継ぎ、社協で見守り

表4. 輪島市内で行われた「被災高齢者等把握事業」の調査概要

調査対象 輪島市内の全世帯(10,887世帯、2024/4/1現在)

- ・ 調査期間 2024年4月1日～6月30日
- ・ 調査人員 調査員のべ 1,327人
- ・ 訪問済み軒数: 12,253軒(空き家、重複訪問を含む)
- ・ 調査方法①被災世帯を直接訪問し半構造式面接方式で調査(訪問アセスメント)  
②調査対象者本人がPCやスマホ等から直接入力(セルフアセスメント)
- ・ 有効回答数 3,096件(①訪問アセス: 3,039件 ②セルフアセス: 57件)

### 事業の成果

①調査項目 家屋被害や健康状況に加え、支援履歴や今後の見通しについて総合的に調査

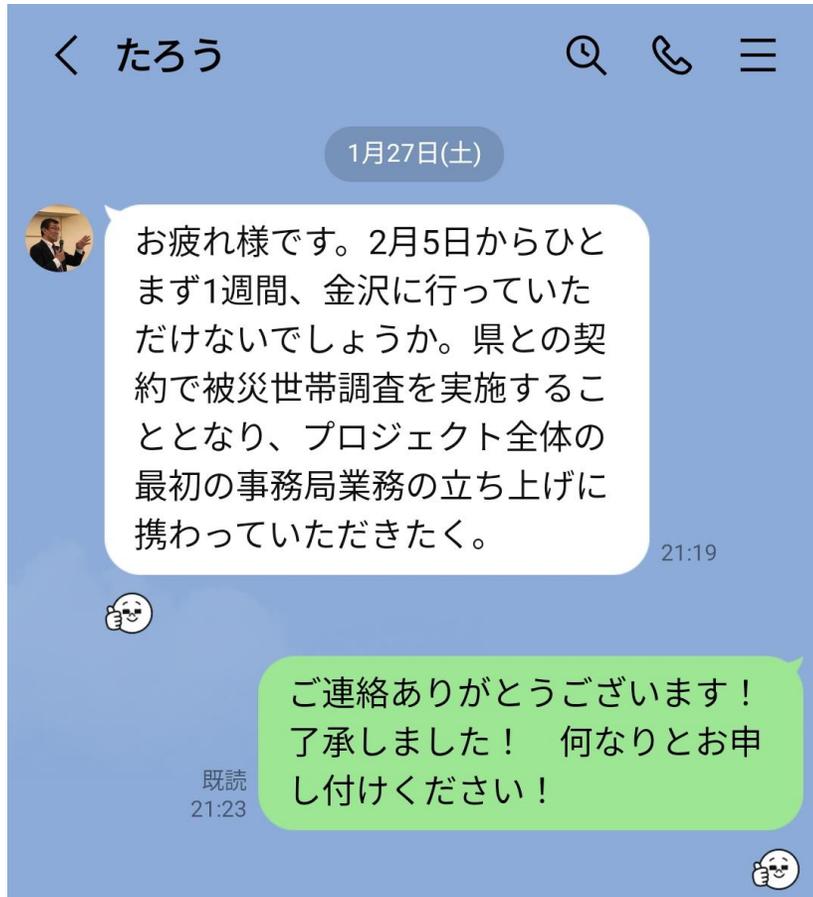
1. 世帯情 住所、世帯構成、要援護情報(介護、障害、子ども、外国人等)
2. 家屋情 家屋種・築年数、被災状況、り災証明、再建の意向
3. 避難情 避難時期、方法、避難先、今後の見通し
4. 健康情 被災前、発災直後、現在、通院・介護ケアの状況、今後の方針
5. 生活情 収入、移動、買い物、通勤・通学、食事
6. 支援情 情報入手方法、支援履歴、相談相手、不安、今後の見通し



出典: 一般財団法人ダイバーシティ研究所



# 私と能登支援



ダイバーシティ研究所  
田村太郎氏から  
被災高齢者等把握事業の  
事務局として派遣

「まずは1週間金沢」→輪島へ移住。笑



# 輪島市の外国人が置かれた状況

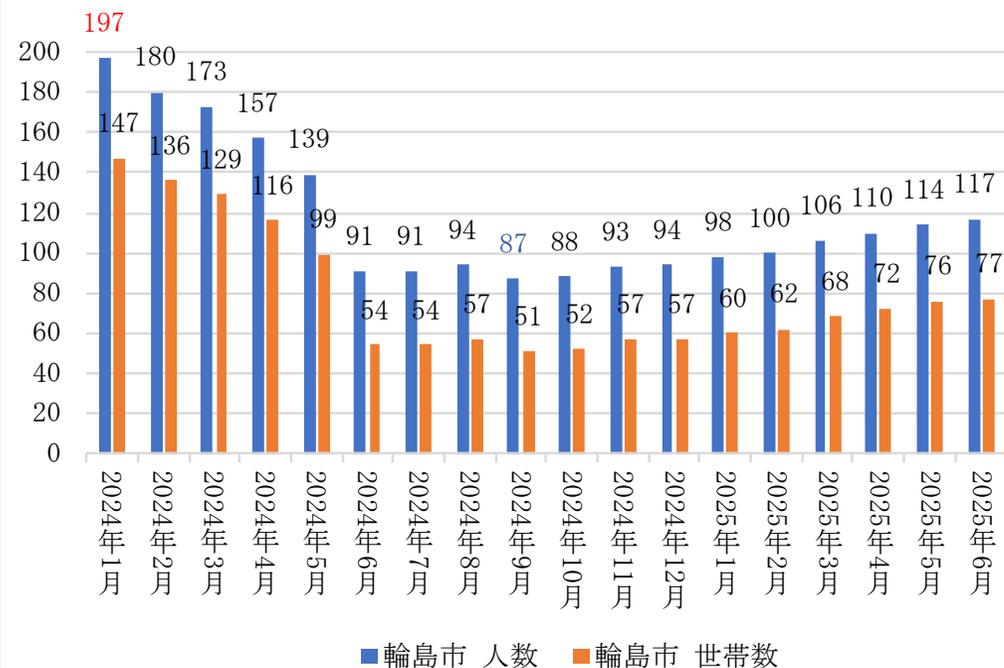
## 解決すべき課題

・見えてこない外国人住民の被害実態  
代表理事が被災高齢者等把握事業に携わり、輪島市内の約11,000世帯の全戸調査を担当してきたが、外国人住民に会えた事例は数えるほどしかなく、被害の実態が見えない。行政の国際課も国際交流協会もない。

・輪島から離れる外国人住民

1月現在197人147世帯の外国人住民が居住していたが、4月には157人116人、5月には139人99世帯と減り、9月には87人51世帯まで半減した。母国で地震を経験したことのない外国人住民も多いが、10月以降はまた技能実習生の受け入れが続く

輪島市外国人住民数推移



日本航空学園のキャンパス移転による留学生減、技能実習先の変更による技能実習生の減少も、また微増傾向。



# 能登半島地震における多文化防災の課題

- 石川県

災害時多言語支援センターを立ち上げるも、奥能登市町からのアクセスなし。県職員、県協会職員が能登に入れず。日頃からHPにアクセスする習慣なし。

- 奥能登市町

国際交流担当が避難所対応で外国人に特化した支援できず。

- 民間団体、地域日本語教室

日本語教室先生も被災。外国人に特化した団体ももともと少ない。



# 奥能登豪雨とのダブルパンチ



- 輪島市に確認し、在留資格、出身国・地域の情報が入った住基情報を提供
- アウトリーチによる安否確認、緊急物資支援
- アンケートによるニーズの把握



# 輪島市の外国人向けのアンケート

- 実施主体=多文化人材活躍支援センター
  - 協力=輪島市、輪島市社会福祉協議会
  - 輪島市福祉課のリクエスト
- 地震の時にどう情報を得たか。誰がサポートしてくれたのか。避難、物資の情報をどうゲットできたか(できなかったも含めて)
- 翻訳言語:やさしい日本語、英語、タガログ語、ベトナム語、中国語、タイ語(1月1日現在の国籍別人数を基に設定)設問数:個人情報、普段の生活、地震後の状況、水害の状況等。30問を準備。
  - 有効回答数:42件(回答率39%)

輪島市の外国人のためのアンケート

このアンケートは、輪島市で2024年1月に起きた地震後の外国人の生活を把握することを目的に、日本で暮らす外国人住民の支援を行う「一般社団法人多文化人材活躍支援センター」が実施するものです。お答えいただいた回答は、輪島市に住む外国人が必要とする支援のために活用します。

■調査実施主体  
調査主体:多文化人材活躍支援センター 協力:輪島市福祉課、輪島市社会福祉協議会

■お問い合わせ先  
本アンケートに関するご質問は、以下の連絡先までご連絡ください。  
多文化人材活躍支援センター 山路  
office@tabusapo.org / 080-8832-4576 / LINE ID: kenzoya3

はじめに、あなたのことを教えてください。

Q1. あなたは、何歳ですか。

Q2. あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

1. 男	2. 女	3. 答えたくない
------	------	-----------

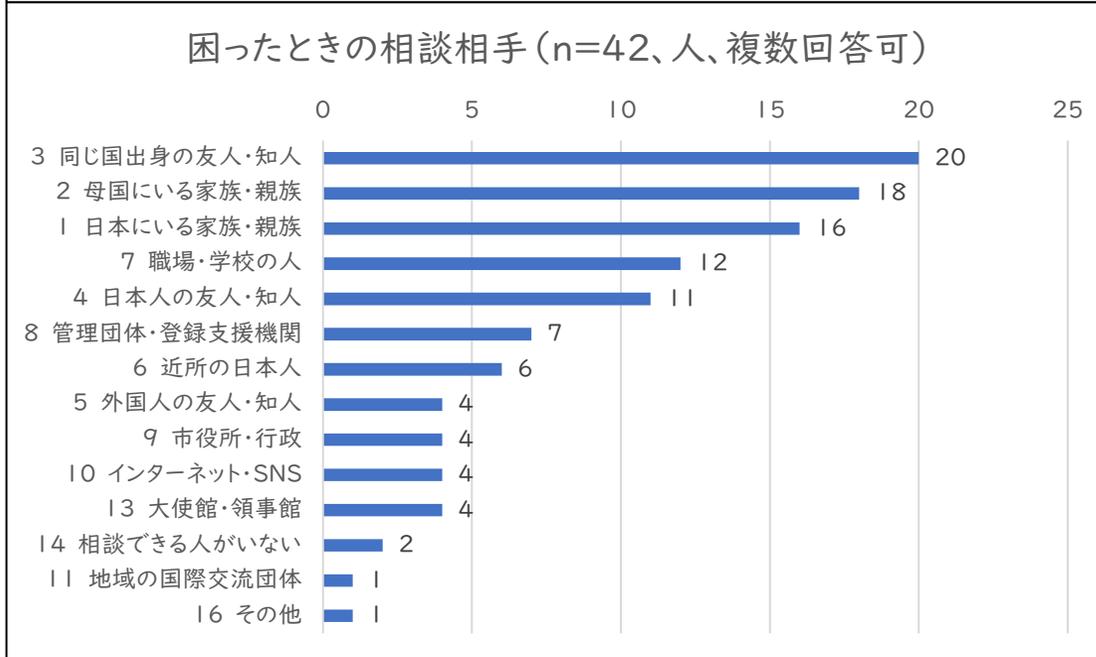
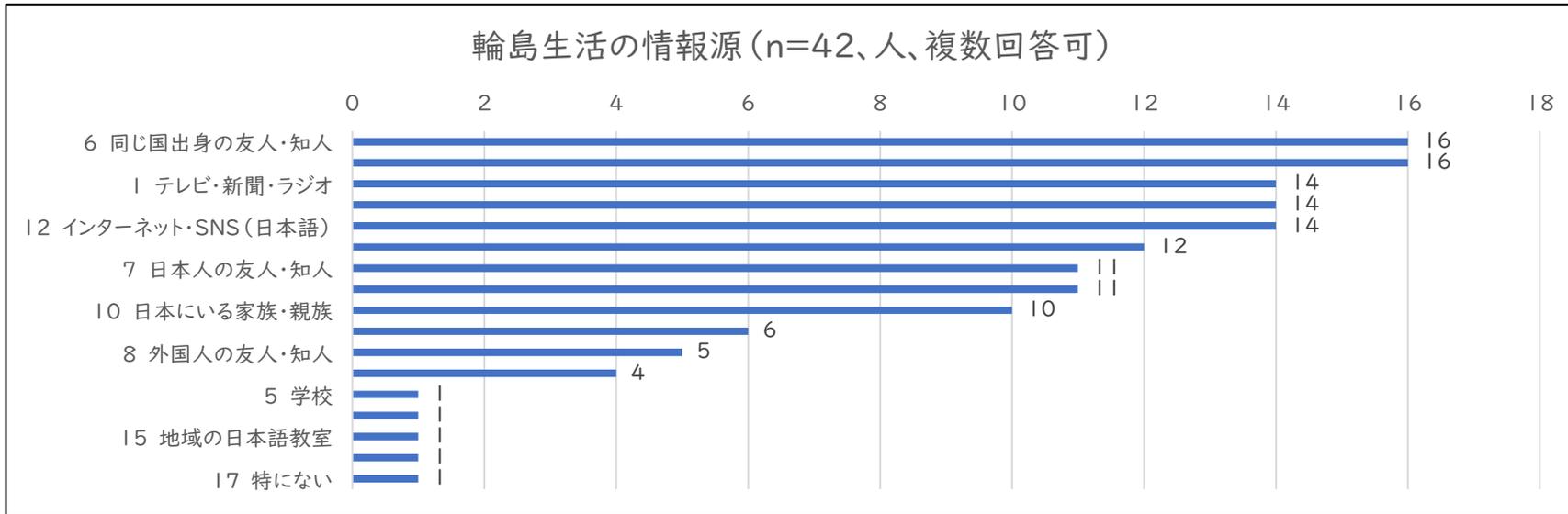
Q3. あなたは妻や、夫、パートナーがいますか。(○はひとつ)

1. いる : あなたと同じ国の国	2. いる : 日本の国	3. いる : 他の国の国
4. いない : いたことがない	5. いない : 離婚した、死んだ	6. 答えたくない

Q4. 生まれた国や地域を教えてください。



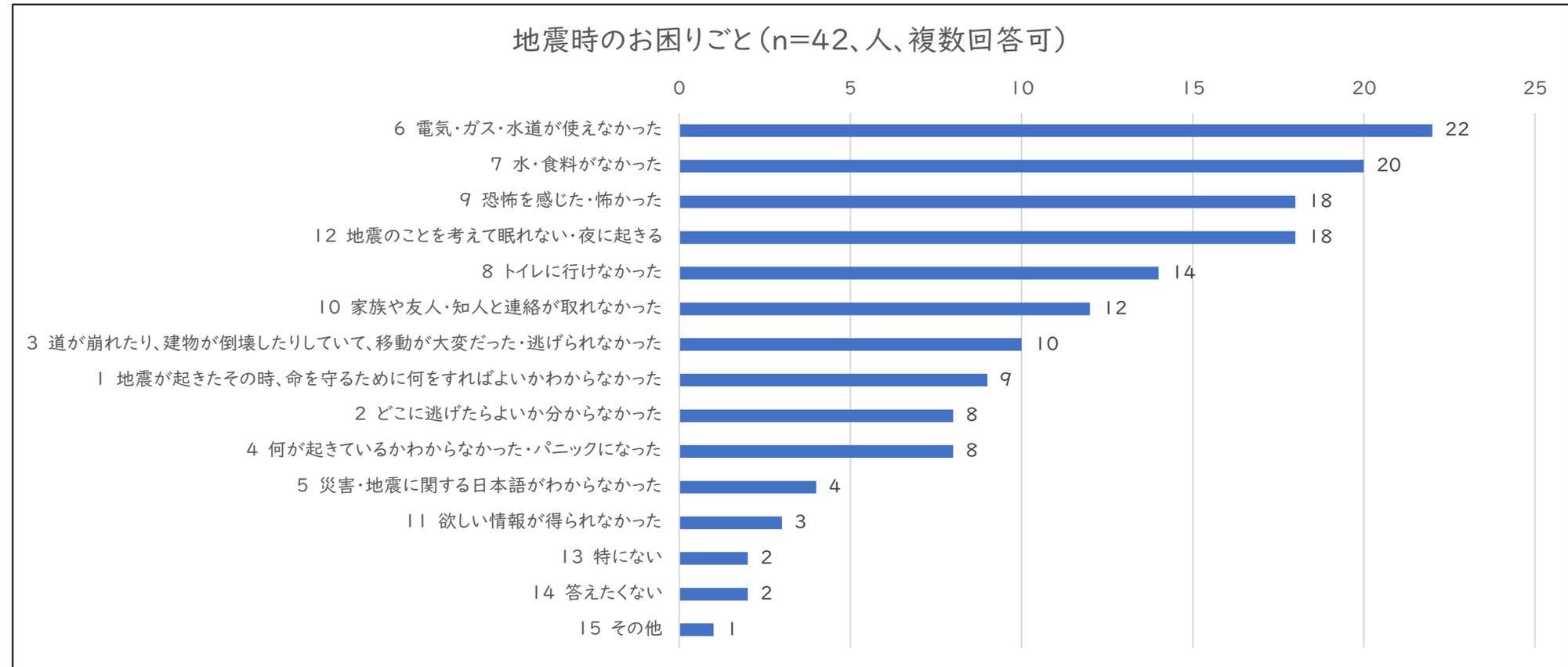
# アンケート結果 (普段の生活)



生活情報を得る情報源としては、「同じ国出身の友人・知人」が圧倒的に多かった。また、困ったことがあった際の相談相手としても「同じ国出身の友人・知人」が多かったことから、情報拡散のためにも、国ごとのコミュニティに いかにアプローチできるかが課題であると考えられる。相談相手がないと答えた2人の拾い上げも必要である。



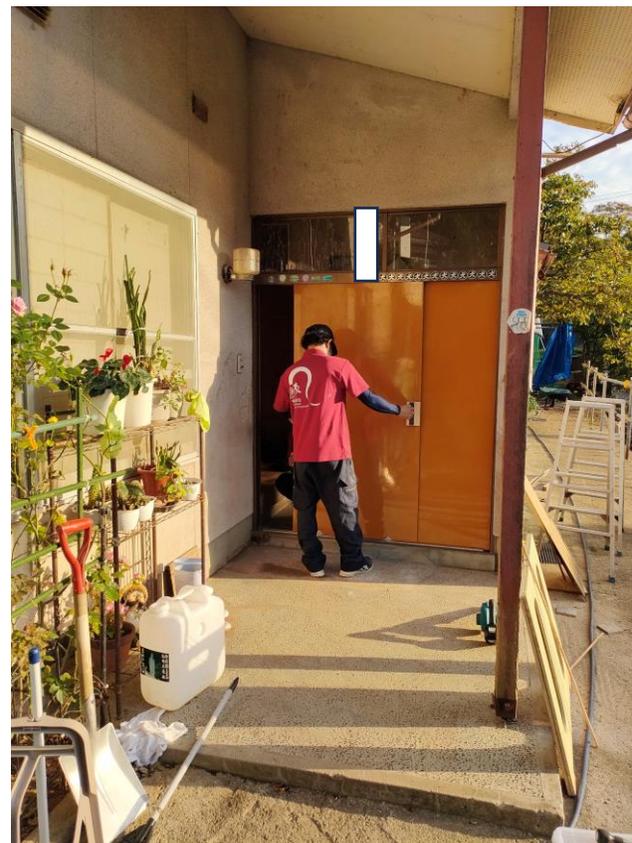
# アンケート結果(地震)



地震時のお困りごととしては、「電気・ガス・水道が使えなかった」が最も多かった。ついて「水・食料がなかった」が多かった。今回の回答者には、ムスリムなど宗教上の食の配慮が必要な方はいなかったと思われるが、外国人向けの物資の備蓄なども求められる。また、「恐怖を感じた・怖かった」「地震のことを考えて眠れない。夜に起きる」も18人ずつが回答しており、メンタルケアの必要性が考えられる。



# アンケートのニーズからつないだ支援①



水害に遭い、玄関が流された日本人配偶者宅に、AAR難民を助ける会さんを通じて、技術系ボランティアの風組関東さんに入ってもらい、仮の玄関を設置。「寒くなる前に助かる」と感謝の言葉があった。



## アンケートのニーズからつないだ支援②



日本人の家族が病気で就労できず、金銭的な不安を抱えた外国人住民（永住者ビザ）から「中規模半壊の家を建て直すお金がないが、下の子ども（中学3年生）が高校を卒業するまで住み続けたい。何とか補修をしたい」と相談があり、こちらもAARさんと風組関東さんに入ってもらい、まずは隙間風が入り込んでいたお風呂周辺の壁をコンパネで補修してもらった。「業者に頼んだらどれだけのお金がかかるか不安だった。本当にこんな支援を探していた」と涙ながらに喜んでくれた。



## アンケートのニーズからつないだ支援③



仮設住宅で暮らすアジア出身の技能実習生より「自転車で買い物に行く際に寒くなってきたが、冬服が高くて買えない」と相談があり、物資支援としてコートをお届けした。「とても暖かいです」と喜んでくれた。



# アンケートのニーズから始めた支援①



相談相手、情報源で「同じ国出身の友人・知人」が多かったことから、料理を通じて、同じ国のコミュニティの方々が集まれる居場所づくりを進める。



## アンケートのニーズから始めた支援②



Facebook利用者が多かったことから、「Noto Multilanguage Support/のと多言語サポート」のページを開設。生活情報や災害情報の発信をしていく。



## アンケートのニーズから始めた支援③



外国人が集まれる場所やイベント、母国の食材を買うなどのニーズも高かったことから、金沢へバスツアーを実施。輪島ではスーパーでアジア食材を買えず、金沢まで片道約100km。バスも往復で5000円弱。



## アンケートのニーズから始めた支援④



着物を持ってきていただいたので、茶道、華道関係者にお声掛けをし、日本文化体験イベントに。珠洲市、能登町からも参加し、ベトナム、カンボジア、インドネシア、フィリピン、アメリカの参加者。外国人の横のつながりづくりとともに、被災した茶道関係者も「久しぶりにイベントができた」とエンパワメントの機会に。



# 避難所運営を担った技能実習生

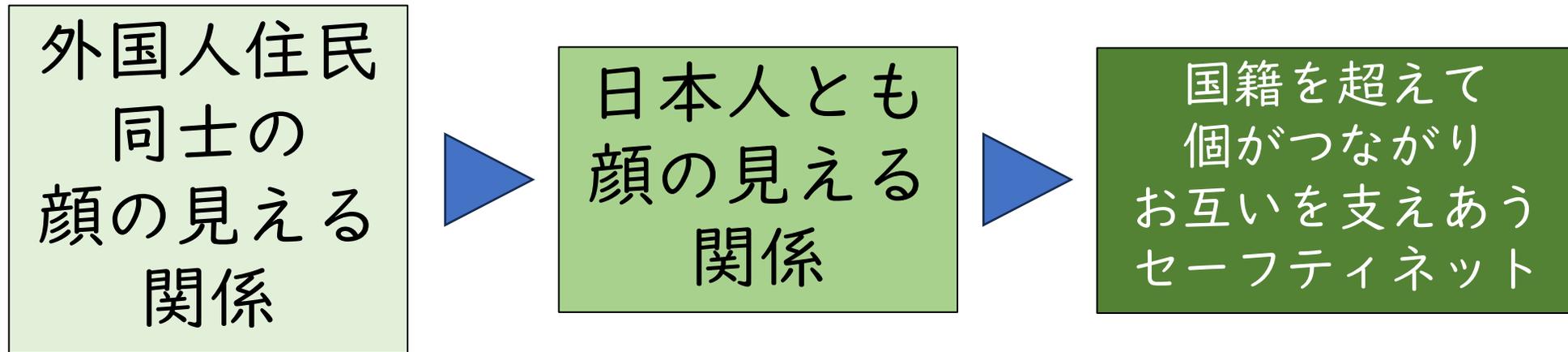


石川テレビ×JICA北陸  
共創プロジェクト  
「被災地でくらす外国人  
～ベトナムから日本へ  
～」

**要支援側ではなく、地域をエンパワメントする外国人住民  
能登の復興の担い手としての外国人材受け入れ**



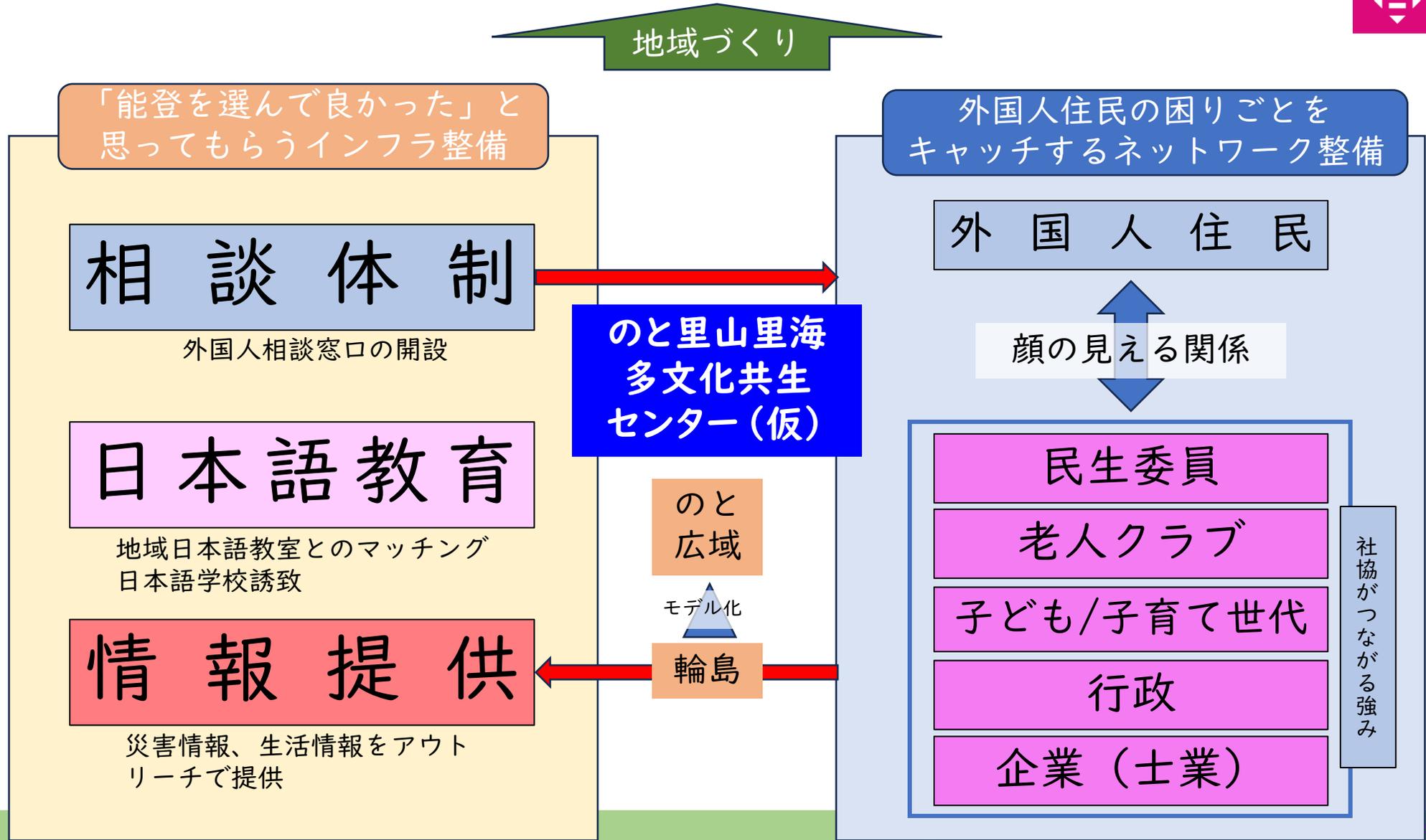
# 能登の復興へ次なる展開



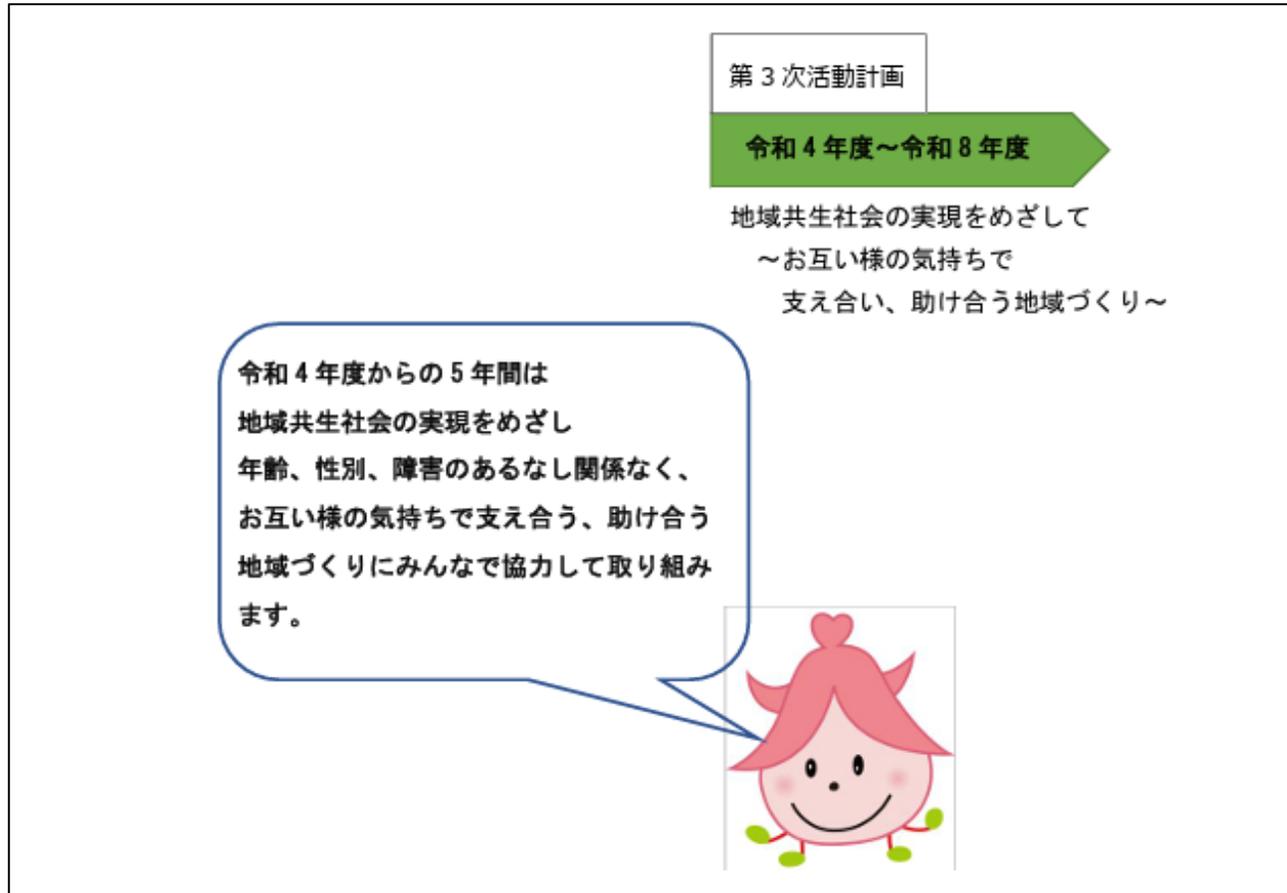
- 民生委員・老人クラブ、自治会、子育て世代と外国人の交流会など=顔の見える関係
- 地震による避難生活で分断されたコミュニティ再生のお手伝い
- 定期的な通いの場がない47.6%=サロンの必要性



「生活者」としての外国人住民を受け入れるインフラが整い、  
復興の担い手としての外国人材と支えあう能登



# 輪島市第3次地域福祉活動計画



地域共生社会の実現をめざして  
→外国人住民を想定した  
「国籍や民族」などの文言はなし



外国人住民も輪島市民。  
第4次計画で入れたい。



## まとめ～地域主体の地域づくりを～

- 社協は「黒子」として、地域の皆様が「力」を取り戻すお手伝いを
- 復興の担い手としての外国人住民
- 地域住民と外国人が顔の見える関係をつくり  
コミュニティの再生を



# ご清聴ありがとうございました

